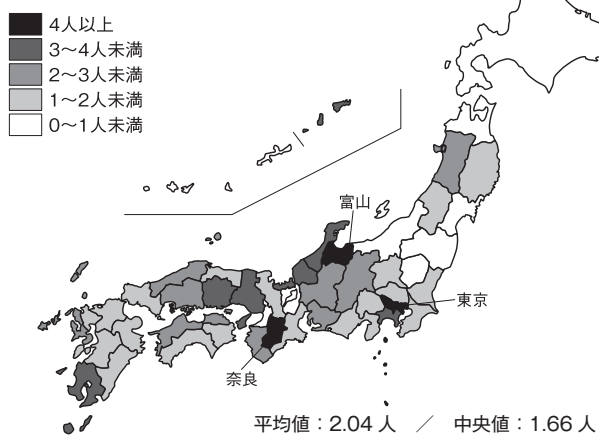
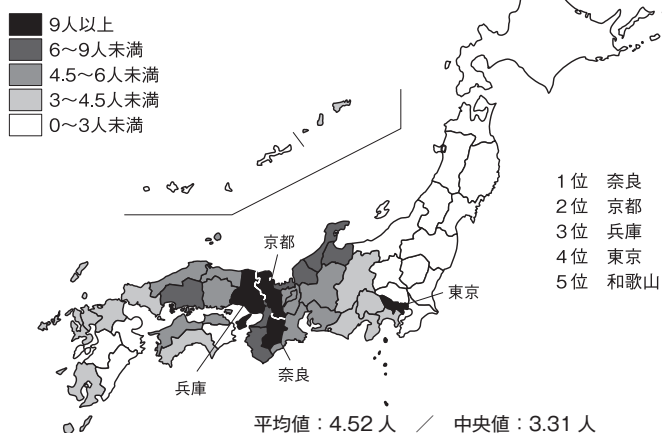
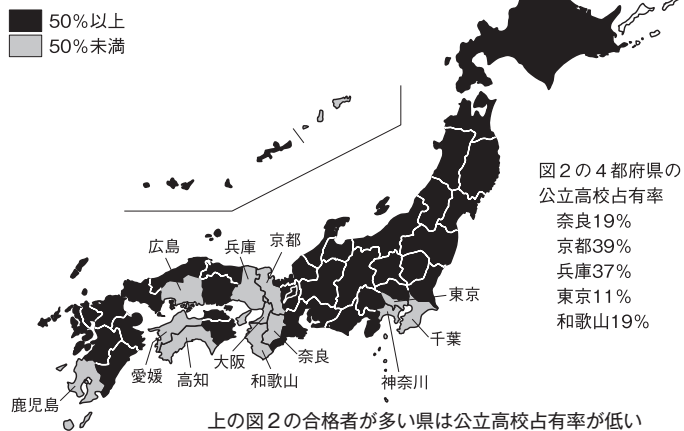


※東京大学 前田裕斗さん調べ

■図1 東大合格者数の地域比較
(18歳人口1000人あたり)■図2 東大+京大合格者数の地域比較
(18歳人口1000人あたり)

■図3 公立高校の東大+京大合格者占有率



連載

進学実績を全国データで見る…
西高東低の格差が浮き彫りに

東京大学医科学研究所 上昌広特任教授に聞く！

医学部新設や今後の医療のあり方にさまざまな提言をしている東京大学医科学研究所の上昌広特任教授。その研究室で実習をしていた前田裕斗さん(医学部6年)が、都道府県別の進学実績を調査したところ、進学格差とも呼べそうな西高東低の傾向が明瞭に現れた。この結果について上特任教授と前田さんに詳しい話を伺った。

関東の教育力が意外にも低かった!?

——前田さんに伺います。なぜ、進学実績を都道府県別に比較する調査をしようと思ったのですか?

前田 医学部の実習の一環で、上先生の研究室に入ったんです。こちらの研究室では、医療ガバナンスが専門で、いろいろな社会的調査や研究を独自にやっています。僕もそのような研究の一つやってみたいと思って、そのときちょうど大学受験のシーズンだったこともあって、東大などの合格者数の地域的な偏在を調べられないかと思ったんです。

その目的は、地域的な教育格差は本当にあるのかという疑問に対して、議論の土台となるようなデータの一つ出すということでした。教育格差はさまざまな格差の根源にあると思いますし、もし本当に教育格差があるとすれば、それについて論じるよりも、まずその事実を明白にするデータを提供し、多くの人がより客観的に議論できるようにしたいと思ったんです。

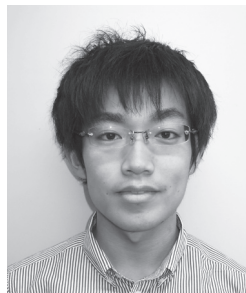
それで、都道府県別に旧七帝大

の合格者数について、既存のデータを使っていろいろと調べてみました。大学受験が教育力を表す一つの指標にと思ったからです。そのほか、スポーツや文芸についても分析しました。

——大学受験の調査では、どのようなデータを使ったのでしょうか?

前田 主に『サンデー毎日』などの週刊誌が毎年発表しているデータを活用しました。2010年度入試のデータを使ったのですが、これは震災前の方が実態を正確につかめられたからです。最初は合格者数だけを調べて比較したんですが、やはり人口が多いところほど数が多くなってしまうって、実態がよく分からない。

そこで、都道府県の18歳人口を省庁のサイトで調べ、18歳人口1000人あたりの合格者数を割り出すことにしました。とりあえず、東大だけ人口補正をかけてみると(図1)、意外にも西日本や北陸で高い数字が出たんです。予想外だったのは、千葉県や埼玉県が低かったことでしたね。推測の域を出ませんが、関東圏の成績上位層は、東京や神奈川の私立に進学するケースが多いのでしょう。



前田裕斗さん
東京大学医学部6年生。実
東京で教育格差を分析し動画
サイトで公開。

僕も、開成という私立学校の出身なのですが、かつての名簿を見ると過半数の生徒は千葉、埼玉、神奈川から通学していました。

——人口比で見ると、東大合格者数で一番多いのは、東京なのですか?

前田 いいえ、奈良が断トツでした。18歳人口が比較的少ないわりに、西大和学園や東大寺学園という名門私立があり、単位人口あたりの東大合格者数が多いんです。

また、北陸3県も高い数字を出していました。この地域は、奈良とは逆に公立の占有率が高いのが特徴的です。どうやら、私立高校が少なく、地域的に教育熱心で、県外の大学に優秀な生徒を送り出す風潮があるようです。この地域の公立高校でどんな進路指導をしているのか、そこを調べると教育格差を解消するヒントが見つかるかもしれません。

——京大を加えると、どうなるので

しょうか?
前田 トップ5は、上から奈良↓京都↓兵庫↓東京↓和歌山ですね。兵庫が出てくるのは、灘や白陵などの私立があるからでしょう。ワースト5は、宮城↓栃木↓福島↓沖縄↓青森です。

全国的に見ると、東京より北の地域が相対的に少ない(図2)。北関東や東北、北海道の高校生は、東大を目指すことはあっても、京

大を目指すことはあまりないようです。京大は西日本にあるので、どうしても関西を中心とした分布になるのですが、それでも東京は京大に進学する者が多く、単純に地域性だけでは片付けられない要因があると思って、もう少し調べることにしました。

地域の教育格差を考える場合、だいたい次の3つの考え方があり、一つ目は、県ごとに

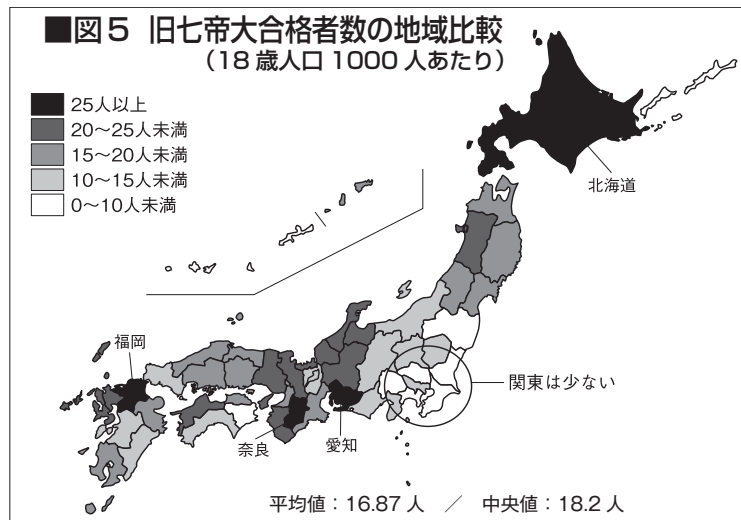
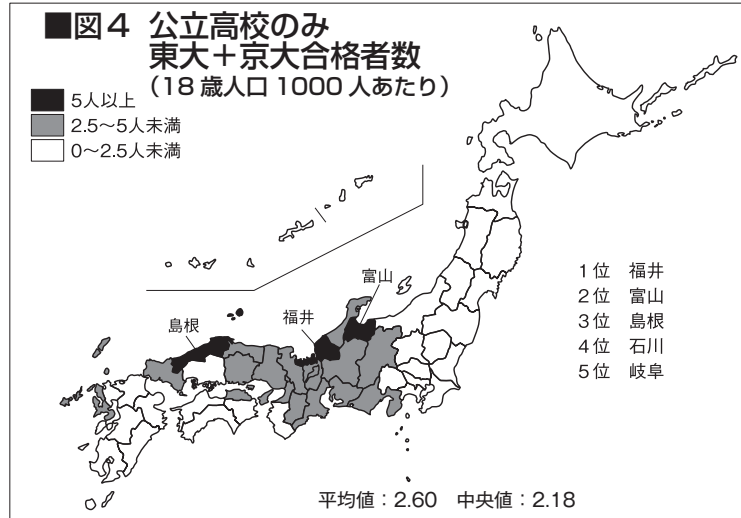
教育を見るなら公立高校だけで見るべきという考え。二つ目は、東大や京大以外にも良い大学はたくさんあるという考え。三つ目は、勉強以外の分野はまた違う結果になるという考えです。

——それで、公立高校のみの合格者占有率を調べたわけですね。

前田 そうです。すると、先ほどの東大+京大の合計合格者数では、次のようになりました。トッ

プ5の公立高校占有率は、奈良19%、京都39%、兵庫37%、東京11%、和歌山19%。ワースト5では、宮城83%、栃木87%、福島95%、沖縄67%、青森100%(図3)。つまり、東大と京大の合格者数の多い地域は、公立の占有率が低い。東京においては、私立高校占有率が9割近くあり、進学に力を入れている私立が多い県ほど、東大や京大の合格者数が多いとは言

※東京大学 前田裕斗さん調べ



※この前田さんの調査は、動画サイト「ユーチューブ」でカラーのプレゼンテーション形式で閲覧できます。タイトルは「3分（未満！）でわかる教育格差」。アドレスは <http://youtu.be/rFjMr7opvpc>

維新のときに戊辰戦争で勝った薩長が、人を育て健康を守るインフラの整備を地元優先で行ったからです。高等教育で一番お金がかかるのは工学部と医学部です。医者を多くし、産業を興そうと思えば人材を養成する医学部や工学部をうまくファンディングして地元によく設置することなんです。

単純に人口から考えれば、関東には東大クラスの大学が三つほど

あつてもいいんですよ。作られなかつたのは、近代日本のしがらみにほかなりません。その事実が、この前田君のデータからも見えてくるんです。

——東北地方や関東地方に医学部が新設されれば、状況は変わるでしょうか？

上——教育力は上がるでしょう。高校の先生なら分かると思いますが、多くの生徒は近くの大学に進学し

ようとするものです。医師は失職するリスクがとても少ないですから、私立大の医学部でも、医師不足や震災復興が目的なら、奨学金や民間ローンなど手厚くできて、いろいろな高校生が進学できるはずで、教育熱心な家庭の保護者は敏感に反応すると思いますね。

医師免許が取れるとなれば、全国から学生が来るし、人が動けばお金も物も動きます。地域の医者

が増えれば、住人も増えます。茨城県つくば市を見ても分かるように、大学や研究機関が来ると、あれだけ活性化するので東北や関東に医学部ができれば医療の問題が解決するだけでは

——医学部の新設の可能性は、どれくらいあるのでしょうか？

上 今、医学部新設の動きが強くなっています。政治の世界では、消費税の問題が片付けば、東北での医学部新設の話題が持ち上がりつつあると思います。宮城県を中心に東北は本気で医学部新設を求めていますし、東北福祉大も本気で東北のブロック紙の河北新報も、医学部新設の記事を積極的に打っている。医学部新設については、セツト完了という状況で、あとは政権与党の民主党がどう動くか。民主党が決断できなくても、おそらく次の政権を取った党が決断を迫られます。まずは、民主党の次の党首選あたりで何かしらの動きがあるでしょう。遅くとも、次の総選挙までには大きな動きがあるはずです。



上昌広特任教授(東大)
医学博士。専門：血液・腫瘍内科学、医療ガバナンス論など。

——医学部の新設の可能性は、どれくらいあるのでしょうか？

なく、教育力や地域経済も変わるんです。

次に、旧七帝大の合格者を見ると、また意外な結果が出ました。全国的に均一化すると思ったのですが、千葉、埼玉、茨城、神奈川が全国的に低いままです（図5）。このデータだけ見れば、関東は教育力が意外と低い地域だと読み取れます。東京工業大や一橋大、早稲田大、慶応大なども入れると変わってくるのかもしれませんが、どの大学まで含めるかという問題になってしまいうので、一つの基準として旧七帝大とさせていただきます。

また、公立高校のみの東大合格者数も比較したのですが、それほど西高東低の傾向はありませんでした。京大が加わると西高東低の

前田 僕には専門的な知識がありませんが、経験に基づいて言えば各地の進学実績を高めるには、例えば高校が東大や京大などの大学を本気で目指す生徒を増やすことが一つの方法だと考えます。

僕が卒業した開成は、東大に合格する生徒が多いのですが、そもそも東大を目指す生徒が多いんですね。なぜ、目指すのかといえば周りに目指す友達や先輩がたくさんいるからです。仲のいい先輩が東大を受験して合格している様子を間近に見ると、自分もそうしたくなってくる。東大入試がどんなものなのか、どうすればクリアできるのか、先輩や友達を取り組みを見ていると、なんとなくイメー

あるのではないでしょうか？

前田 このデータからいえることは、東大や京大の合格者の多くは私立出身で占められるということです。東大と京大の合格者は計5915人で、公立だけに絞ると2666人で約4割。東大のみだと、この比率がもう少し下がります。私立学校にもいろいろな生徒がいますが、一般的な傾向としては、所得の低い家庭の子どもはあまり入学しません。この時点で、東大や京大に入れる可能性が低くなってしまうわけで、低所得者と中高所得者で差が自動的にできてしまうのは、やはり問題なのかなという気がします。

例えば、低所得の家庭の子ども

えそうです。

ただ、公立高校のみで東大＋京大の合計合格者数を調べると（図4）、トップ5は上から福井→富山→島根→石川→岐阜で、ワースト5は千葉→神奈川→青森→沖縄→高知となり、関東や東北が低いです。公立だけでも、あるいは私立を加えても、単位人口当たりの東大・京大合格者数は西に多くて東に少ないということになるんですね。

傾向が出てきて、私立も加えるとこの傾向が強まり、旧七帝大で見ると意外と関東が苦戦している様子が浮かび上がるんです。

一言で言えば、大学受験は西高東低で、進学指導に力を入れている東京や神奈川の私立の存在で見えにくくなっていますが、西日本の生徒のほうが東日本の生徒よりも進学実績が高いんです。

——この進学格差は、どうすれば縮められるかと思いましたか？

ジがつかめるんです。だから、僕は模試でE判定を連発していました。が、諦めなかった。親の励ましも大きな支えでしたが、学校で先輩や同級生の様子を見ていたことも大きかった。

東大や京大でなくてもいいと思うのですが、より上の大学を目指す雰囲気は学校の中に出てくると進学についての数字も変わってくるのかなと思うんです。

——この格差には、社会的な要因も

が公立高校に入って、東大や京大にどれだけ入ったか、地域別に調べれば興味深い数字が出てくるかもしれません。低所得の家庭の生徒を東大や京大に送り出している県もあれば、そうでない県もあるような感じがします。結局、人材が育たない地域は、どうやっても衰退してしまうし、衰退すると教育熱心な家庭も流出します。地域によっては、公立高校の進学実績を高めないと、さまざまな社会的格差の固定に一役買ってしまうかもしれません。今回の調査を通して、教育格差を見つめることは今の日本社会の根本を見つめることだなどと思いました。

東北や関東の医学部新設で
教育力の格差が縮まる

——上先生に伺います。前田さんのデータを見て、どのような感想を持たれましたか？

上 教育力は西高東低で、中でも
関東が一番遅れている。実は、こ
の傾向は、医師数の偏在にも見ら
れるんです。単位人口あたりの医
師数は西日本のほうが多いし、医
療インフラも教育インフラも西日
本に充実している。これは、明治